



K-I-F-A Plaza

第23号

1995年3月20日発行

〈発行〉

鎌ヶ谷市国際交流協会

編集・広報部会

- * Home stay trip to New Zealand (page 2-3. 6)
- * KIFA Winter Party (page 4-5)
- * "Discover Japanese culture in Kamagaya" (page 6)
- * Reader's Column (page 7) Miscellaneous Information (page 8)



岡田氏、石井（清）氏のホームステイ先、ロジャー邸にて

花いっぱいのもニュージーランドへ

成人初の海外派遣で17人のK I F A会員がニュージーランドを訪問。

17 KIFA members visited N. Z. from Oct 4th~11th, 1994.

They enjoyed the springtime vacation with beautiful flowers all over the country. They also experienced home stays in Whakatane. It was the first home stay trip KIFA arranged for adults. (See page 2 and 3 for more photos)



ワカタネ港より3時間の船旅でホワイト島へ。
船着き場がないためゴムボートに乗り換え上陸。
スリル満点、水びたし。

「でも最高の思い出になりました！」

“Soaking wet but a great memory!”

Because there was no pier on White Island, they had to take off their shoes and socks when leaving their boat to go on the island. It was an unexpected incident.

派遣リーダー 岡本 靖子

今年度KIFA派遣事業は、青少年から成人へと対象を移し、実行されました。会員17名（男性7名、女性10名）で構成されたメンバーの平均年齢が58歳。若干の不安を抱きながら9000km、11時間の旅。10月5日、無事南島のクライストチャーチへ第一歩を踏みました。10月のNZは春らんまん、新緑が美しく、色とりどりの花が我々メンバーを迎えてくれました。しかし外気は8℃、肌寒く感じました。今回の訪問で、ワカタネ市長はじめ皆さんが、姉妹都市提携に積極的である事がよくわかりました。協会としてはこれからの派遣事業にいくつかの課題も残してはいますが、得る事の多い視察であったと思います。リーダーとしては未熟な私でしたが、メンバーにしっかりサポートされ無事任務を終える事ができました。心よりお礼申し上げます。



バット邸でホストファミリーとパーティを楽しむ

ワカタネ市の人口の約40%が『マオリ族』とのこと、約960年前、この地へカヌーで漂着した先住民がマオリ族です。漂着した彼らが、近くの山へ狩りに出かけている間、女性達が浜でカヌーを守っていました。突然、カヌーが風で流され、これを必死の思いで守り通したその女性のリーダーが、今回、私達のスケジュール等を綿密に計画してくださったポーリン・バットさんの祖先だということです。その勇気ある女性リーダーの石像が、ワカタネ埠頭の大きな岩の上に、長い髪をなびかせ、堂々たる姿を、夕日に浮かびあがらせていました。そしてバットさんの胸に大事そうにかけられたニュージーランドヒスイ（グリーンストーン）のペンダント（祖先からの受け継がれた貴重なものだそうです）に、マオリ族の誇りと自信を感じました。

(N. K)



KIWISとの (NZの人々)



17人の派遣メンバー ♥ 不安のかけもなし！

石井	田澤	上中	岡田	清松	安尾	石井	富田	田澤	関野	相原	篠崎	岡本	庄司	関野	佐久間	高橋
実	マツ	範	猛	樋	米	清	照	二	栄	恵	玲	靖	重	正	真	康

今回海外派遣に参加して本当に幸せだったと思っています。ワカタネとの交流はもとよりですが、同行した皆さんと本当に親しく交流させて頂けたことが何より良かったと思っています。(R. S)

NZでは日本と異なり、「リタイア」するのが早くホームステイ先のご夫婦（58歳、55歳）も、ご主人は不動産関係の仕事をしていたようですが、子供たちがそれぞれ独立し、今は週2～3回程ゴルフをしたり、趣味等楽しみながらの悠々自適な毎日を過ごしているそうです。(E. S)

キリリ鎌ヶ谷を
踊る女性群

偶然『ワイルドスワン』を共に読んでいて、同じところで心をうたれたということで、ホストファミリーとの話がはずんだり楽しい時を過ごすことができました。でも、ワカタネの町のこと、人々の生活のこと、学校のように、老人問題などあげればきりが無い位聞きたいことが一杯あったのに、三泊のホームステイはあっという間に終わってしまいました。(S. S)

交流を終えて

平成6年10月4日～11日

はじめての(平均年齢58歳)

成人派遣!!



ワカタネの教育システムは、日本でいう幼稚園が2年、小学校が4年、中学校が3年間で標準で、13歳で職業・進学のコースを決めるとのことでした。学校は5歳の誕生日を過ぎたら入学し、入学日はバラバラで日本のような入学式はないそうです。授業形態は、1クラスを3つのグループに分けて1人の先生が指導するそうです。

中学生の息子達を残して多少の不安を抱え旅立った私でしたが、ホームステイ先のライソンご夫妻とワカタネの人々とのふれあいを通じ、ニュージーランドの生活の一端を肌で感じることができた事は良い思い出となり、また、この体験を息子達に話してやり、彼等も海外に目を向けるきっかけになればと感じています。(K. A)

経済交流については関心が高く、これはビジネスに結びつかないかとの質問を多く受けた。やはり人的交流だけでなく生活と密着した交流も必要なのかなあと思ったりもしました。(Y. Y)

バスの車窓より目に入る景色は、なだらかな起伏の有る牧草地に群をなす羊。ブルーに澄んだ湖に帆船が一つ二つ。実にのどかな気持ちにしてくれた。マオリコンサートを鑑賞したが、日本の伝統芸能、文化の広さ、奥行の深さを今さらの様に誇りに思った。(T. T)

日本については、テレビで見るだけで殆ど何も知らないとか。でも家の中に入ると、テレビ、ステレオ、ビデオ、また自動車、トラクター等はすべて日本製、ちょっぴり優越感をおぼえました。(M. T)

NZではイルカを海の友達と見なすようです。一方日本ではイルカは食物であり、漁師の敵でした。文化の違いでしょうか。(Y. T)

ワカタネ市より船で片道3時間半、海底火山の島、ホワイト・アイランドへの上陸は、日本では味わえない冒険の連続で、船酔いと共に忘れられない体験



日常生活は大牧場経営、教師の家にしては質素にしている印象を受けた。まず食事、朝食は薄い食パン、ベーコンエッグに紅茶かコーヒー。夕食はグレープフルーツ野菜スープ、肉か魚を焼いたものの皿にポテトとブロッコリー、ワインかビール、食後にクッキーと紅茶であった。我々は外国からお客を接待するとなるとつい構えてしまい無理をして豪勢な食事を用意しがちだが、ごく普通プラスワンぐらいで良いのではないかと考えさせられた。別れの際、ワカタネと鎌ヶ谷の国際交流が、子供、孫の子々孫々まで続くよう我々が努力していこうというポーリン・バットさんのご挨拶に大変感銘を受けた。

(M. S)



キーウィスとの
かたらい

「ホームステイ先では難しい又込み入った話は身振り手振りではなかなか通じません。本当に伝えたい事、聞きたい事の8割り方はダメでした。会話に時間がかかり過ぎるので、翌日からは奥さんが筆談してくれるようになりました。それで意味が判るのですが、返事の方がなかなかできませんでした。主語や動詞などいっているうちに時間が掛かりすぎ漫画みたいな3日間を過ごしました。でも楽しい心に残る旅行でした。(N. K)

ニュージーランドは春まっさかり!少々寒く感じましたが、雪をいただいた山々や、花いっぱい美しい風景にわーという歓声と共に《みんなの和》がなごやかな笑顔とともに沸き上がったように感じました。

ホストファミリーの方々にも恵まれ、市長はじめ姉妹都市委員会の方々のご協力のおかげで、加えてポーリンバットさん、ワカタネ在住の宮下さん方のご協力。さらに加えて参加された17名の協力のお陰で研修の旅は無事終えることができたのだと思います。(M. S)

P 6. 下段に続く

交流部の女性による料理会議を経て、準備されたもりださんの料理。ウー、どれから食べ始めようかなと迷ってしまうほど好評。



フィリピンの美しいダンスでパーティーを盛り上げてくれたエヴィリン鳥山とネリ仲。



1994年11月27日(日) 12:00～15:00
総合福祉保健センター 6 階にて、
第7回「KIFA PARTY」が開催されました。
18ヶ国、59人の外国人参加者を含め、総勢225人が参加しました。

The 1994 KIFA party was held November 27 in the Kamagaya Health & Welfare building with 225 people participating.



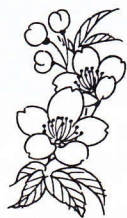
パキスタンとペルーは、はじめての参加。
各国それぞれに特徴があり、交流の場となっていた。



パーティーの雰囲気を盛り上げた
民族衣装の競演。

—— プ ロ グ ラ ム ——

- | | |
|--|--|
| (1) 開会のことば
<small>かい かい</small> | (6) フィリピンのダンス
<small>おん かく なま えん そう</small> |
| (2) 主催者挨拶
<small>しゅ さい しや あい さつ</small> | (7) 音楽(生演奏)
<small>おん かく なま えん そう</small> |
| (3) 音楽(生演奏)
<small>おん かく なま えん そう</small> | (8) ゲーム
<small>げー む</small> |
| (4) 乾 杯
<small>かん ぱい</small> | (9) 全員合唱
<small>ぜん い じん がー しょう</small> |
| (5) 参加国紹介
<small>さん か かく しょう かい</small> | (10) 閉会のことば
<small>へい かい</small> |



バイオリンは、アメリカから東大の大学院に留学している
ステイブ、ピアノはニュージーランドのシャロンと日本の
石関氏との合奏が実現。

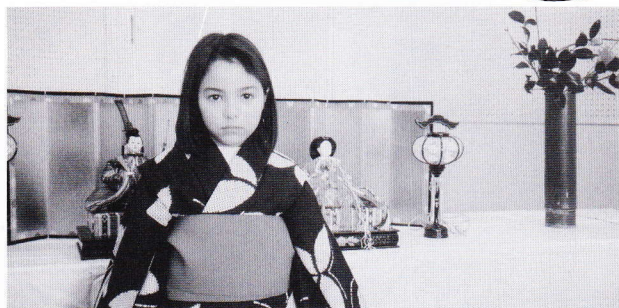


'94.11.27

Discover Japanese culture!

日本の伝統文化 (生け花) (習字) (着付け) を体験

世界の
文化交流
No.10



おひな様よりきれいです!

去る2月19日(日)11時より、交流部会担当の日本文化を体験する会が行われました。当日は市内在住の外国人など約40人がまなびいプラザに集まり、部会員と共に日本文化を楽しみました。減多に着るチャンスのない着物は、特に好評でした。

軽い昼食を囲んで午後2時まで大いに話に花が咲きました。



御夫妻で和服にトライ



「イラクでもお花を生ける時、決め事があるの?」



「そのまま力を抜いてスーとおとして……」

P 3 より 続き (N・Z 帰国報告)

ホームステイでお世話になった家庭はローレンさんロジャーさんの夫婦で、三人の子供さんはそれぞれ成人して別居とのこと。ご主人は警察官の退職者で定年後、鹿の牧場経営者となったとのこと。現在70エーカーの土地に、鹿120頭、肉牛若干、又他に貸付けてある土地等含めた年間総収入は農場よりの収入20,000ドル、貸付けてある他の収入80,000ドル、之に要する支出は(農場経営者のため)6,000ドル、年間の税金は1,300ドル、又1日の家計支出は、電力100ドル、石油等の油代200ドル、食費一週間につき100ドルであるとのことでした。家庭内の状況からして此の地では上流の家庭だと想像しました。この度の交流を通じて感じたことは、世界の人類は皆一つだと云うこと。唯報道ではよくこの言葉を聞きました。が異国の人と交わって初めて体験出来たことでした。

(K. I)

この旅行を通して、いつも女性の皆さんの積極、果敢な行動に感心、感銘。ワカタネ最後の晩のバーベキューパーティーでの「キラリ鎌ヶ谷」の歌と踊りも立派。初日のワカタネ市長主催のティーパーティーでも英会話のもてる能力をフルに発揮し、おしゃべりをしていた。戦後、強くなったのは靴下と女性。合い言葉になったが、この言葉を思い出すにはいられなかった。女性の皆さんのすべての面での活躍を益々期待する。(S. T)

二日目の夕食にあらかじめ用意して持っていった日本米とカレーで私が作ったカレーライスをプレゼント。ロジャーもローレイも珍しい日本食のカレーライスを食べグットハッピーと喜んでくれた。食事後、日本より持って行った簡単英会話ブックを見て、日本語の勉強の特訓でロジャー夫妻は目を光らせていた夢中の顔が今も目に残る。いよいよお別れの三日目も日本語の特訓にとっても喜んでくれたことで国際的意志の疎通が出来たことを私も喜んでいいる。(T. O)

ニュージーランドに到着、各地を観光し待望のワカタネ市の庁舎訪問。会場は大広間にてニュージーランドの国旗、日本の国旗、そしてK I F Aの国旗が飾られ国際色豊かな雰囲気に包まれていました。市長はじめ大勢の職員に迎えられ、市長より記念品の灰皿を一人一人もらい握手し歓迎の挨拶を述べられました。岡本団長の訪問挨拶の英語に大喝采となり訪問の意味が一段と深くなってきました。こちらよりお土産の披露。懇親会になり、色々と接待を受け賑やかに親善の役目を果たした次第です。(M. I)

心で話す

鎌ヶ谷第三中学校教諭

鴻池 淑子

最近はやたらと『国際』と言う文字が目につく。国際人・国際化・〇〇国際高校そして国際交流。『国際』とつくとなんだかカッコよく聞こえるから不思議。

生徒に『国際人とは?』と聞くと、『英語が話せる人、外国に行ったことがある人』などと言う答えが返って来る。『じゃ、国際人になるのって結構難しいね。』となってしまう。

英語を教えている以上『話せるようになろう。』と言うのが、本当はもっと大事な事がある。『どうやって話すか』よりも『何を話すか』である。話す中身が大切なのだ。話す中身は一人一人の心の中身に匹敵している。

それは時として言葉なしにも通じてしまう事もある。

どの人に対しても互いの違いを認め合い、互いを受け入れる心を持っている人、そして平和を心から愛している人ならみんな『国際人』と言うのだ、と生徒には英語の授業を通じて語りかけている。



こんな経験がある。リュック一つかついでスペインを旅した時の事だ。私の旅はリュックにジーンズ、Tシャツ、少しの着替えと往復の飛行機旅券が定番。行き当たりばったりで風の向くまま気の向くまま。気に入った町に好きなだけいる。スペイン語の辞書片手に道を聞き、ホテルを探し、電車に乗る。中1の英語力にも劣るスペイン語でどうやって1か月間旅を続けられたのだろう。それは心で話していたのだと、今気付く。夜行列車のコンパートメントで車掌さんまで加わって夜通しの即席パーティーをした。スペイン語の話せない私と英語も日本語も話せないスペインの友。どうして6時間も楽しく会話?ができたのだろう。私の旅の思い出は言葉が通じる英語圏よりも、通じない所の方がなぜか多い。

煙の山に光を求めて

東中沢在住

高野 彰久



昨年、春、私は青年会議所のNGO実践研修として、フィリピン スモーキーマウンテンを視察に行き、特に二つの事を痛感しました。一つは『百聞は一見に如かず』という事。実際に体験してみると、大切さを改めて実感しました。もう一つは『我々に何ができるか』という事。実際に現場に行くと自分自身の無力さを感じます。同時に、人それぞれの価値観で出来る事から貢献していく事が大切なのではないのでしょうか?

スモーキーマウンテンは、マニラ市内から湾岸を通り北へ5~6キロほど行くと約40年間ゴミを捨てられ続け、そこにおよそ2万2千もの人々が住んでおり、人々はビニール袋やカン等を拾い、それを売る事により、生計を立てていたとのこと。マニラからバスで15~20分ぐらいで周囲の雰囲気が変わっていく。さらに行くと、ものすごい悪臭が漂ってくる。よく見ると、道路までゴミが溢れ、さらに山の方から生ゴミの汁のようなものが流れ、その中に米をまいたようにうじがわいている。なおかつその道を素足で歩いている子供もいた。しかしそういう状況の中でも、子供達はとても明るく、心の中から笑い喜んでいるように見えた。この子供達は、もし自分が不幸であっても自分から改革していこうとするが、今の日本の子供達は、自分が少しでも不幸だと思うと、人や親のせいにしたがる。同時に周りに対する思いやりが欠けているのではないだろうか?そもそも学歴社会から生じる問題だと思う。なおかつ親が子供に与えるのではなく、子供が考えて作り出していくことが本当の人間に与えられた宿命なのかもしれない。スモーキーマウンテンの地に立ち、改めてそう思い、ここの人々はお金はないが心はとても豊かなのだと思い、本当の豊かさとはいったい何だろうか?と考えさせられた。



投稿規定: 25文字×30行以内。題名、住所、氏名、年齢(学年)を明記の上、

鎌ヶ谷市国際交流協会事務局(市役所3階企画課)まで。

記載されたものには、粗品をお送り致します。



国立歴史民俗博物館へ 交流部会担当

総勢50名でたのしく日本史の勉強

A Visit to the National Museum of Japanese History



晩秋の10月16日(日)、午前9時に東武鎌ヶ谷駅に集合して、佐倉の国立歴史民俗博物館へ。参加者は外国人27名、通訳ボランティア12名、子供11名。英語、中国語、韓国語……など飛び交い賑やかな見学となりました。

A group of 27 non-Japanese and 23 Japanese people visited the National Museum of Japanese History in Sakura on October 16. Among the Japanese group were 11 children and 12 volunteer translators who all helped the foreigner's group better understand some of the historical exhibits.

Everyone enjoyed lunch together and seemed to have had a good time overall.

語学講座について

研修部会

閉 講 式：2月25日(土)、まなびいプラザにて
記念講演は、テレビ朝日「徹子の部屋」
担当ディレクターの梅崎早苗氏による
「ユニセフ親善大使と共に。」

開 講 式：95年度講座予定は次の通りです。
英語4講座(初級2講座・中級2講座)
スペイン語、中国語
詳しくは「広報 かまがや」4月1日号を
ごらん下さい。

第2回4部会合同研修会

1994年11月5日(土)、総合福祉保健センターに於いて
行われました。今年度のニュージーランド、ワカタネ派
遣報告と各部会からの報告と提案がありました。

チャリティガラージセールに参加！

1994年11月3日(木)、市役所駐車場にて、KIFAの
PRのため、通訳ボランティアより出店しました。

法人、団体会員のご紹介

平成6年度継続、新規加入ありがとうございました。
(株)鎌ヶ谷造園土、(株)京葉銀行、(株)住友銀行、(株)第一勧業
銀行、(株)千葉銀行、(株)千葉興行銀行、(株)東洋ハウジング、
(株)三菱銀行、鎌ヶ谷市自治会連合協議会、鎌ヶ谷ライオ
ンズクラブ、鎌ヶ谷ロータリークラブ、貴光(有)、城山建
設(株)、千葉県立鎌ヶ谷西高等学校、(有)フィニックス、永
井建設(株)、日本電信電話(株)、船橋信用金庫、丸小建設興
業(株)、(有)皆川不動産、(有)エース工業、(有)岡田産業、(有)那
須設計工務、(有)フードショップ吉野、(有)保科発條製作所、
(株)三和銀行、鎌ヶ谷青年会議所、鎌ヶ谷市体育協会、(株)
写真庵、鎌ヶ谷市スカウト連絡協議会、松下工業(株)。

KIFA 会員募集

あなたもKIFAの会員になりませんか？

KIFA—鎌ヶ谷市国際交流協会は、会員の皆さんの、
会員の皆さんによる、鎌ヶ谷市の国際交流推進のための
団体です。

WOULDN'T YOU LIKE TO JOIN KIFA?

Look what you can experience by joining
the friendly staff at KIFA:

- * Attending an "international" party!
 - * Making new friends!
 - * Seeing and talking to foreigners!
 - * Being apart of internationalization!
- Join today!!

入会申し込みは、KIFA事務局まで
(市役所3階企画課内)

☎45-1141 内線550

編集後記

広報誌作成の際、その都度、各ページの担当者が変わ
り、企画、構成、文字的才能の無い私は、毎号四苦八苦
産みの苦しみを味わっております。

各部会も年々活気付き、広報部の活動範囲も広がり、
皆様にも原稿、取材依頼をする事も多くなることと思
います。今号も大勢の方々のご協力を得ましたが、これか
ら、よろしくお願いいたします。(Y.S)